



▲毎年恒例の盆踊り大会

7月27日、恒例の蓼川自治会主催の盆踊り大会が、蓼川神社境内で開催されました。大勢の参加者があり、子どもたちの浴衣姿が華やかさを添えていました。子ども会のお母さんたちの焼き鳥の夜店も大人気で、楽しい夏の夜のひとときを親睦を深めながら楽しんでいました。【大滝 隆司】



▲神埼遺跡発掘現場の見学会

7月28日、幸運に恵まれて発掘の現場を見ることができました。弥生時代という、のどかな農耕の時代かと思っていたら、村同士の戦争の時代だったそうで、村の周囲には深い堀(環濠)を巡らせて、外敵の侵入を防いでいたようです。1800年前の地表も見ましたが、この後埋め戻されて公園になるそうです。【段木 武】



署名記事は広報まちかど特派員から



▲「森のキノコの働き」を学びました

7月30日、あやせ環境ネットワーク主催の「環境体験学習会」が長峰の森でありました。子どもたちは森の中で県森林インストラクターから地面や倒木に生えていたキノコの名前や種類、毒の有無などの説明を受けた後、手に取って興味深そうに見ていました。【福島 順一】



▲わんぱくスクール「気象予報士のお天気教室」

7月31日、早園地区センターで日本気象予報士協会サニーエンジェルのメンバー4人を講師に迎えて開催されました。ペットボトルで雲を作る実験や気圧、台風、防災対策など私たちの日常と深い関わりの話もありました。とても楽しそうに実験する子どもたちが印象的でした。【杉並 世衣子】



▲あやせの特産品をめざして「幻の高座スイカ」

8月2日、市役所市民ホールで高座スイカ研究会の皆さんが復活させた高座スイカ(富研号)の試食会と販売がありました。試食した人は、みずみずしさと、あまりの甘さに驚いていました。綾瀬の特産品となることが、今から楽しみです。【高橋 元】



▲あやせ地域カレッジを開校しました

8月2日に開校されたあやせ地域カレッジは「いつまでも住み続けたいと思えるまち」をつくるための人材育成を目的とした、市とコミュニティサポートあやせの主催による市民協働事業です。フィールドワークを中心に全7回の講義が予定され、開校式後の基調講演で30人余の参加者は、何をすべきか真剣に考えていました。【近藤 秀敏】



▲手作りいかだで川下り

8月4日、綾瀬青年会議所と青少年課などの共催による目久尻川での川下りがありました。使ういかだは、前日に13組の家族が思い思いに手作りしました。村野橋から道庵橋までの間、安全対策スタッフに見守られながら、歓声と爆笑の400mでした。【河野 実】



▲あ～！発泡スチロールが溶けた、ペットボトルが糸になった

8月4日、リサイクルプラザで「プラスチックリサイクル親子体験教室」がありました。プラスチック循環利用協会の方から、種類や使われ方、リサイクルの仕組みなどの説明後、実際にペットボトルから繊維を作りました。最後にプラスチックのコップに絵を書いてキーホルダーを作りました。【福島 順一】



▲市長訪問

▲少年少女国連大使が市長を表敬訪問

8月2日、JCI Japan少年少女国連大使を務める佐竹和香さん(15歳、深谷中)が笠間市長を訪問しました。佐竹さんは同大使20人の1人として、7月22日から28日にかけてニューヨーク市を訪問。国連本部やユニセフなどを訪れ、それぞれの取り組みや考え方などを学びました。「国連ミレニアム開発目標のひとつ、すべての子どもたちの初等教育達成のために条例を作してほしい」と市長に思いを話しました。



▲夏休み親と子の工作教室

工作教室は、神奈川土建一般労働組合湘南支部がPTAと協力しながら30年以上実施しているもので、今年は7月28日に市内の小学校4校で行われました。実施校のうち綾瀬小学校では親子約150人が参加し、組合員の指導を受けながら、踏み台や本棚などを作っていました。この日は早園・落合・土棚の3校でも行われました。